



システム メッセージの概要

このマニュアルでは、Catalyst 3750、3560、3550、2975、2970、および 2960 固有のシステム メッセージについて説明します。これらのメッセージは稼動中、システム ソフトウェアからコンソール（および任意で別のシステムのログイン サーバ）に送信されます。すべてのシステム メッセージがシステムの問題を意味するわけではありません。純粋に通知目的のメッセージもあれば、通信回線、内蔵ハードウェア、またはシステム ソフトウェアの問題を診断するうえで役立つメッセージもあります。このマニュアルでは、システムで障害が発生した場合に表示されるエラー メッセージについても説明します。

Catalyst 3750、3560、3550、2975、2970、または 2960 プラットフォーム固有ではないシステム メッセージについては、Cisco IOS リリース 12.2S に対応する『Cisco IOS Software System Messages』を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- 「システム メッセージの読み方」(P.1-1)
- 「エラー メッセージ トレースバック レポート」(P.1-7)

システム メッセージの読み方

システム ログ メッセージは最大 80 文字と 1 つのパーセント記号 (%) で構成され、設定されている場合にはその前に、オプションとしてシーケンス番号またはタイムスタンプ情報が付加されます。メッセージは次の形式で表示されます。

シーケンス番号: タイムスタンプ: % ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: 記述 (ホスト名-n)
(Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)

シーケンス番号: タイムスタンプ: % ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: 記述 (Catalyst 3750 および 2975 以外のスイッチ)

システム メッセージ出力はデフォルトで、ログイン プロセスに送信されます。スイッチ スタックでは、スタック メンバーがシステム メッセージ出力に各自のホスト名を追加し、スタック マスター上のログイン プロセスに出力を転送します。

各システム メッセージはパーセント記号 (%) から始まります。構成は次のとおりです。

% ファシリティ - 重大度 - ニーモニック: メッセージテキスト

- ファシリティは 2 つ以上の大文字からなるコードで、メッセージで言及するファシリティを示します。ファシリティはハードウェア デバイス、プロトコル、またはシステム ソフトウェア モジュールのいずれかを指します。表 1-1 に、Catalyst 3750、3560、3550、2975、2970、および 2960 固有のファシリティ コードを示します。第 2 章「メッセージおよび回復手順」で、ファシリティ コードのアルファベット順、重大度の高い（数字が小さい）エラーから先に、各メッセージについて説明します。

表 1-1 ファシリティ コード

ファシリティ コード	説明	参照先
ACLMGR	Access Control List (ACL; アクセスコントロールリスト) マネージャ	P.2-3 の「ACLMGR メッセージ」
AUTOQOS	Automatic Quality of Service (auto-QoS) (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-8 の「AUTOQOS メッセージ」
BACKUP_INTERFACE	Flex Link	P.2-8 の「BACKUP_INTERFACE メッセージ」
BADTRANSCEIVER	障害トランシーバ メッセージ (3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-9 の「BADTRANSCEIVER メッセージ」
BSPATCH	ブート ロード パッチ	P.2-9 の「BSPATCH メッセージ」
CFGMGR	コンフィギュレーション マネージャ (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-10 の「CFGMGR メッセージ」
CMP	Cluster Membership Protocol	P.2-13 の「CMP メッセージ」
DHCP_SNOOPING	DHCP スヌーピング	P.2-14 の「DHCP_SNOOPING メッセージ」
DHCP_SNOOPING_CAT3550	DHCP スヌーピング (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-17 の「DHCP_SNOOPING_CAT3550 メッセージ」
DOT1Q_TUNNELING	IEEE 802.1Q トンネリング (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-18 の「DOT1Q_TUNNELING メッセージ」
DOT1X	IEEE 802.1x	P.2-19 の「DOT1X メッセージ」
DOT1X_SWITCH	スイッチ用 IEEE 802.1x	P.2-20 の「DOT1X_SWITCH メッセージ」
DTP	Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランキング プロトコル)	P.2-23 の「DTP メッセージ」
DWL	Down-When-Looped	P.2-24 の「DWL メッセージ」
EC	EtherChannel	P.2-25 の「EC メッセージ」
ENVIRONMENT	環境 (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-30 の「ENVIRONMENT メッセージ」
ETHCNTR	イーサネット コントローラ	P.2-30 の「ETHCNTR メッセージ」
EXPRESS_SETUP	Express Setup	P.2-35 の「EXPRESS_SETUP メッセージ」
FM	機能マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-36 の「FM メッセージ」
FRNTEND_CTRLR	フロントエンド コントローラ (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-45 の「FRNTEND_CTRLR メッセージ」
GBIC	Gigabit Interface Converter (GBIC; ギガビット インターフェイス コンバータ) モジュールの識別および有効性チェック (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-46 の「GBIC メッセージ」
GBIC_SECURITY	GBIC モジュールおよび Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュール セキュリティ	P.2-49 の「GBIC_SECURITY メッセージ」
GBIC_SECURITY_CRYPT	GBIC および SFP モジュール セキュリティ	P.2-52 の「GBIC_SECURITY_CRYPT メッセージ」

表 1-1 ファシリティ コード (続き)

ファシリティ コード	説明	参照先
GBIC_SECURITY_UNIQUE	GBIC および SFP モジュール セキュリティ	P.2-53 の「GBIC_SECURITY_UNIQUE メッセージ」
GIGASTACK	GigaStack GBIC モジュール (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-54 の「GIGASTACK メッセージ」
HARDWARE	ハードウェア	P.2-55 の「HARDWARE メッセージ」
HLFM	ローカル フォワーディング マネージャ	P.2-57 の「HLFM メッセージ」
HPSECURE	ポート セキュリティ	P.2-59 の「HPSECURE メッセージ」
IDBMAN	インターフェイス記述ブロック マネージャ	P.2-59 の「IDBMAN メッセージ」
IGMP_QUERIER	Internet Group Management Protocol (IGMP) クエリア	P.2-62 の「IGMP_QUERIER メッセージ」
ILPOWER	Power over Ethernet (PoE)	P.2-64 の「ILPOWER メッセージ」
IMAGEMGR	イメージ マネージャ (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-70 の「IMAGEMGR メッセージ」
IP_DEVICE_TRACKING_HA	ハイ アベイラビリティのための IP デバイス トラッキング	P.2-71 の「IP_DEVICE_TRACKING_HA メッセージ」
L2TM	レイヤ 2 フォワーディング マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-72 の「L2TM メッセージ」
L3TCAM	レイヤ 3 ユニキャスト ルーティング マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-72 の「L3TCAM メッセージ」
MAC_LIMIT	Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレス テーブル エントリ	P.2-73 の「MAC_LIMIT メッセージ」
MAC_MOVE	ホスト アクティビティ	P.2-74 の「MAC_MOVE メッセージ」
NETWORK_PORT_SATELLITE	ネットワーク ポート サテライト (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-75 の「NETWORK_PORT_SATELLITE メッセージ」
PAGP_DUAL_ACTIVE	Port Aggregation Protocol (PAgP) デュアルアクティブ検出	P.2-75 の「PAGP_DUAL_ACTIVE メッセージ」
PBR	Policy-Based Routing (PBR; ポリシーベース ルーティング) (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-76 の「PBR メッセージ」
PHY	PHY	P.2-78 の「PHY メッセージ」
PIMSN	Protocol Independent Multicast (PIM) スヌーピング	P.2-80 の「PIMSN メッセージ」
PLATFORM	下位レベル プラットフォーム固有	P.2-81 の「PLATFORM メッセージ」
PLATFORM_FBM	プラットフォームのフォールバック ブリッジング マネージャ	P.2-83 の「PLATFORM_FBM メッセージ」
PLATFORM_HPLM	プラットフォームの疑似ラベル マネージャ	P.2-84 の「PLATFORM_HPLM メッセージ」
PLATFORM_IPC	プラットフォームのプロセス間通信プロトコル (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-85 の「PLATFORM_IPC メッセージ」

表 1-1 ファシリティ コード (続き)

ファシリティ コード	説明	参照先
PLATFORM_PBR	プラットフォームのポリシーベースルーティング	P.2-87 の「PLATFORM_PBR メッセージ」
PLATFORM_PM	プラットフォームのポート マネージャ	P.2-89 の「PLATFORM_PM メッセージ」
PLATFORM_RPC	プラットフォームのリモート プロシージャ コール (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-90 の「PLATFORM_RPC メッセージ」
PLATFORM_SPAN	プラットフォームの Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ)	P.2-92 の「PLATFORM_SPAN メッセージ」
PLATFORM_UCAST	プラットフォームのユニキャストルーティング	P.2-93 の「PLATFORM_UCAST メッセージ」
PLATFORM_VLAN	プラットフォームの VLAN (仮想 LAN)	P.2-96 の「PLATFORM_VLAN メッセージ」
PLATFORM_WCCP	プラットフォームの WCCP	P.2-97 の「PLATFORM_WCCP メッセージ」
PM	ポート マネージャ	P.2-97 の「PM メッセージ」
PORT_SECURITY	ポート セキュリティ	P.2-106 の「PORT_SECURITY メッセージ」
QATM	QoS および ACL TCAM マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-107 の「QATM メッセージ」
QM	QoS マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.2-109 の「QM メッセージ」
QOSMGR	QoS マネージャ	P.2-111 の「QOSMGR メッセージ」
RMON	Remote Network Monitoring (RMON; リモート ネットワークモニタリング)	P.2-118 の「RMON メッセージ」
SDM	Switch Database Manager (SDM; スイッチング データベース マネージャ) (Catalyst 3750 スイッチのみ)	P.2-119 の「SDM メッセージ」
SPAN	Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ)	P.2-119 の「SPAN メッセージ」
SPANTREE	スパニングツリー	P.2-120 の「SPANTREE メッセージ」
SPANTREE_FAST	スパニングツリー高速コンバージェンス	P.2-128 の「SPANTREE_FAST メッセージ」
SPANTREE_VLAN_SW	スパニングツリー VLAN スイッチ	P.2-129 の「SPANTREE_VLAN_SW メッセージ」
STACKMGR	スタック マネージャ (Catalyst 3750 および 2975 スイッチのみ)	P.2-129 の「STACKMGR メッセージ」
STORM_CONTROL	ストーム制御	P.2-132 の「STORM_CONTROL メッセージ」
SUPERVISOR	スーパーバイザ Application-Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け集積回路)	P.2-132 の「SUPERVISOR メッセージ」
SUPQ	スーパーバイザ キュー	P.2-133 の「SUPQ メッセージ」
SW_DAI	ダイナミック ARP インスペクション	P.2-135 の「SW_DAI メッセージ」
SW_MACAUTH	MAC アドレス認証 (Catalyst 3750 および 3560 スイッチのみ)	P.2-138 の「SW_MACAUTH メッセージ」

表 1-1 ファシリティ コード (続き)

ファシリティ コード	説明	参照先
SW_VLAN	VLAN マネージャ	P.2-139 の「SW_VLAN メッセージ」
SW_MATM	MAC アドレス テーブル マネージャ (Catalyst 3550 スイッチのみ)	P.139 の「SW_MATM メッセージ」
SWITCH_QOS_TB	QoS 信頼境界	P.2-146 の「SWITCH_QOS_TB メッセージ」
TCAMMGR	Ternary Content Addressable Memory (TCAM) マネージャ	P.2-147 の「TCAMMGR メッセージ」
UDLD	UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出)	P.2-149 の「UDLD メッセージ」
UFAST_MCAST_SW	UplinkFast パケット転送	P.2-151 の「UFAST_MCAST_SW メッセージ」
VQPCLIENT	VLAN Query Protocol (VQP) クライ アント	P.2-152 の「VQPCLIENT メッセージ」
WCCP	Web Cache Communication Protocol (WCCP; Web キャッシュ信プロトコ ル)	P.153 の「WCCP メッセージ」
WRLSCNTR メッセージ	Catalyst 3750 Integrated Wireless LAN Controller スイッチ	P.2-153 の「WRLSCNTR メッセージ」

- 重大度は 0 ~ 7 の 1 桁のコードで、状態の重大度を表します。数字が小さいほど深刻な状況です。
表 1-2 に、メッセージの重大度を示します。

表 1-2 メッセージの重大度

重大度	説明
0 - 緊急	システムが使用不可能な状態
1 - アラート	ただちに対応が必要な状態
2 - クリティカル	クリティカルな状態
3 - エラー	エラー状態
4 - 警告	警告状態
5 - 通知	正常だが注意を要する状態
6 - 情報	単なる情報メッセージ
7 - デバッグ	デバッグ時に限り表示されるメッセージ

- ニーモニックは、メッセージを一意に識別するコードです。
- メッセージテキストは、状態を説明したテキスト文字列です。メッセージのこの部分には、端末ポート番号、ネットワーク アドレス、またはシステム メモリ アドレス スペースの位置に対応するアドレスなど、イベントの詳細情報が含まれることがあります。この可変フィールドの情報はメッセージごとに異なるので、ここでは角カッコ ([]) で囲んだ短い文字列で示します。たとえば 10 進数は [dec] で示します。表 1-3 に、メッセージの可変フィールドを示します。

表 1-3 メッセージの変数フィールドの表記

表記	情報のタイプ
[dec]	10 進整数
[char]	1 文字
[chars]	文字列
[enet]	イーサネット アドレス (たとえば 0000.FEED.00C0)
[hex]	16 進整数
[inet]	インターネット アドレス

マスター スイッチ以外の Catalyst 3750 および 2975 スイッチが生成した Syslog メッセージは、必ず (*Switch-x*) で終わります。*Switch-x* は、メッセージを生成したスタック メンバーの番号です。マスター スイッチが生成した Syslog メッセージは、ホスト名の文字列なしで表示されます。

次の例は、Catalyst 3750 および 2975 以外のスイッチのスイッチ システム メッセージの一部分です。

```
00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet0/2, changed state to up
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet0/1, changed
state to down 2 *Mar  1 18:46:11: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2
(10.34.195.36)
18:47:02: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
*Mar  1 18:48:50.483 UTC: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
```

次の例は、Catalyst 3750 スイッチ スタックまたは Catalyst 2975 スイッチ スタック内のスタック マスターおよびスタック メンバー スイッチ (ホスト名は *Switch-2*) に対応するスイッチ システム メッセージの一部分です。

```
00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/1, changed state to up
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/2, changed state to up
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet1/0/1, changed
state to down 2
*Mar  1 18:46:11: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
18:47:02: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)
*Mar  1 18:48:50.483 UTC: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by vty2 (10.34.195.36)

00:00:46: %LINK-3-UPDOWN: Interface Port-channel1, changed state to up (Switch-2)
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/1, changed state to up (Switch-2)
00:00:47: %LINK-3-UPDOWN: Interface GigabitEthernet1/0/2, changed state to up (Switch-2)
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface Vlan1, changed state to down
(Switch-2)
00:00:48: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface GigabitEthernet1/0/1, changed
state to down 2 (Switch-2)
```

エラー メッセージ トレースバック レポート

メッセージの中には、内部エラーが記述され、トレースバック情報が含まれているものがあります。この情報は非常に重要です。テクニカル サポートの担当者に問題を報告するときに、必ず提出してください。

次のメッセージ例にはトレースバック情報が含まれています。

```
-Process= "Exec", level= 0, pid= 17  
-Traceback= 1A82 1AB4 6378 A072 1054 1860
```

システム メッセージによっては、エラー メッセージをコピーしたうえでさらに対応を要求される場合があります。次のオンライン ツールからシステム エラー メッセージの詳細を得ることもできます。

アウトプット インタープリタ

アウトプット インタープリタは、**show tech-support** イネーブル EXEC コマンドなど、さまざまな CLI (コマンドライン インターフェイス) コマンドの出力に基づいて、詳細情報および推奨する対応策を提供します。アウトプット インタープリタには、次の URL からアクセスしてください。

<https://www.cisco.com/cgi-bin/Support/OutputInterpreter/home.pl>

Bug Toolkit

Bug Toolkit は、解決済みまたは未解決の問題点に関する情報を提供します。特定の Cisco IOS リリースで既知のバグをすべて検索できます。Bug Toolkit には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Bugtool/home.pl>

TAC への連絡

エラーの種類を特定することができない場合は、P.x の「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」を参照してください。

